

Greeting from KEIO

部長挨拶

慶應義塾体育会バドミントン部部长 岸田和明



慶早バドミントン定期戦は、今年で第65回を迎えました。これは両校のバドミントン部の歴史と伝統の重さを物語る数字であり、関係された方々が積み重ねられてきた努力を想像すれば、改めて感嘆の念を抱かざるを得ません。特に、今年は慶應義塾体育会バドミントン部の創部75年目にあたります。これまでの歴史を刻まれてきた皆様に深く敬意を表します。

言うまでもなく、各種競技における「慶早戦」は、早稲田大学・慶應義塾大学両校にとって他の公式試合とはまた違った意味をもつ、たとえ実力差があったとしても、負けることのできない重要な一戦です。格上の早稲田に対して、慶應は意地を見せなければなりません。選手たちが慶早戦ならではの底力を出してくれることを大いに期待しています。

どのような結果になろうとも、「ノーサイド」(他競技の用語ですみません)の後は、十分に親睦を深め合ってもらえればと思います。大学間の垣根を越えて交わることのできる機会はいたいへん貴重であり、おそらく「慶早戦」だからこそ与えられるものです。精一杯戦い、語り合い、今日一日を楽しんでください。

会長挨拶

三田バドミントンクラブ会長 諏訪芳博



今年は慶應義塾体育会バドミントン部創部75周年の記念の年であり、また、現行の記念館での最後の慶早戦となります。

永きにわたる歴史と数々の思い出がいっぱい詰まった定期戦ですが、その区切りとなる第65回慶早バドミントン定期戦が開催されます。

最近、ジュニア世代からバドミントンに触れる人口が増え、リオオリンピックでの活躍などで一躍脚光を浴びるスポーツに変身しました。

現在の慶應は男子が3部、女子が3部という状況で、男女とも1部の早稲田に胸を借りる試合となると思われます。

ただ、学生スポーツは、その勝敗も大切ですが、スポーツマンシップに則り、定期戦に出場した選手、残念ながら出場できなかった選手が悔いのない取組み(練習等)をして、選手一人ひとりがそれぞれ満足することも大切だと思っています。

自分を信じて、自分の力を出し切り、自分に納得のできる試合や応援をやり抜くことを期待しています。

最後に、慶早戦の開催にあたり準備等にご尽力いただいた皆さまに感謝し、記念館最後の慶早定期戦に向けた挨拶とさせていただきます。

Greeting from WASEDA

部長挨拶

早稲田大学バドミントン部部长 鈴木克彦



第65回早慶バドミントン定期戦開催、誠におめでとうございます。65回の歴史を築き上げて来れたのも、ひとえに早慶OB・OGの皆様方のご尽力であり、学生諸君には、感謝の気持ちを忘れずに本定期戦に臨んでもらいたいと思います。

さて、この原稿を執筆した8月には、本学OBで現日本代表でもある嘉村健士君が第23回世界バドミントン選手権大会男子ダブルスにて見事に銅メダルを獲得しました。嘉村君は本学スポーツ科学部出身であり、スポーツ科学部所属の教員としてもバドミントン部長としても非常に嬉しいニュースであります。また近年、バドミントン日本代表が大活躍している

背景には、他国のプレーに対する科学的な分析が進められていることを聞いており、学生諸君には、競技としてのバドミントンのみならず、研究としてもバドミントンを意識してもらえれば、大学教員としてこれほど嬉しいことはありません。そして、3年後となりますが、東京オリンピックでは今回の定期戦に出場する学生諸君の中から代表選手が選出される可能性もあります。ぜひ大きな目標に向かって練習に励み、本定期戦も含め最高の結果を残してもらいたいと存じます。

最後になりましたが、両校の現役諸君及びOB・OGの皆様方が本大会を通じてより一層の交流が深まることを祈念致します。

会長挨拶

稲門バドミントンクラブ会長 登坂 洋



第65回早慶バドミントン定期戦おめでとうございます。

今年慶応義塾大学バドミントン部は、創部75周年を迎え、6月に塾長ご出席の中、盛大な式典が行われ、私共もお招き頂きました。伝統ある慶応大学が、日本バドミントン界や学生バドミントン界を牽引してきたことが強く感じられる素晴らしい式典でありました。

慶応の10年後に早稲田が創部した年に、慶応から早慶戦開催の声をかけていただき、その後絶えることなく今年第65回を迎えることができました。

今年は長年使わせていただいた日吉記念館最後の大会となります。

OB、OG、現役それぞれに思い出があることと思いますが、私は、特に4年の時、慶応と一緒に練習をさせてもらい、日吉記念館と早稲田記念会堂を互いに行き来いたしました。

卒業後10年ほど経ち仕事で住友セメントに伺った際、課長さんとお互い見覚えがあり、何処でのつながりかと話すうち彼は、慶応体操部出身同期の平尾氏で、日吉記念館のバドミントンの隣で練習していたと判り、長年懇意に仕事をさせてもらいました。

早稲田記念会堂も現在建て直し中ですが、同じく私が4年で、慶応が練習に来ていた時、隣接する文学部の学生食堂に吉永小百合がいるぞ、の声に練習を中断し、皆で顔を見に行ったことも思い出です。

今年の夏も厳しい合宿練習を乗り越え、迎えた本日の早慶戦は、日吉記念館最後の大会であり、男子は5種10単、女子は2種3単の総力戦で、早稲田の4年生は、最後の団体戦公式試合です。全員様々な思いを抱え、全力で戦いのない戦いをし、楽しんだ、またいつもの楽しい思い出を残しましょう。

最後に、本大会の開催にご協力いただきました大学教員、および関係者の方々に感謝申し上げます。

7月より前監督加藤正裕君の海外赴任に伴い、後任として慶應義塾体育会バドミントン部監督の任に就きました。昭和63年卒の岩田好造と申します。諸先輩方が築き上げてきた伝統を受け継ぎ、古豪復活・文武両道に向けて、個々の人間的成長を第一義に掲げて頑張って参りたいと存じますので、今後とも何卒宜しくお願い致します。

さて小生にとっての慶早戦の思い出は、1987年の主将戦で見市昌弘君とファイナルセッティングゲームで惜敗したこと。不思議とこのシーンや試合後のレセプションで見市君とバックハンドの技術論を熱く語らった情景が、今でも鮮明に蘇ってきます。そして、このありありと呼び起こされる感覚・感情が、30年経った現在でも仕事や人生の難局に立ち向かう際に、私に無限のエネルギーを与えてくれます。そういう意味では私の原点であると言っても過言ではありません。

慶早戦の思い出が何故そこまでのチカラを持つのか?そのことを改めて気づかされる場面がありました。先日日吉で行われた創部75周年の式典で、塾の歴代のOB・OGの方だけでなく、早稲田大学の諸先輩方と現役選手諸君が、目をキラキラ輝かせながら当時を語らいあい、世代を超えて、熱い想いとエールを酌み交わしているシーンを目の当たりした時です。正に『魂のバトン』を受け継いできたことを強く実感した瞬間でした。慶早ともに時代の激流の中で歴史を刻み続け、『不易流行』で敢然と立ち向かい続けてきたことの価値を改めて実感し、心が震えた次第です。

長年慶早戦の戦いを見守り続けてきた現在の日吉記念館が建て替えのため、今回が最後の舞台となります。現役選手諸君、慶早両校の数多くの先輩方が営々と築き上げてこられたこの晴れ舞台で、思う存分日々の鍛錬・練習の成果を発揮してください。バドミントンという言葉を通じて、コートの上で、永遠のライバル早稲田大学の現役選手諸君と、一羽一羽、ワンラリーワンラリーを大切に、お互いの生きざまをぶつけ合ってください。きつかけがえのない一生モノの体験となることでしょう。

最後になりましたが、早稲田大学の現役選手諸君、今年の慶早戦でも、是非、諸君の実力を余すことなく慶應に見せつけてください。慶應は本日の慶早戦で対戦した諸君との試合を糧にして、昨年よりも今年、今年よりも来年へと、着実に一步一步前進して行きます。

KEIO VS WASEDA

各種 生あん
煉あん
ねり

製菓材料の御用は
品質本位の当店へ!!



株式
会社

清水製あん所

本社・工場 横浜市南区中村町3丁目203番地の14 電話 横浜 (045) 261-1523番
あん専用工場 横浜市泉区飯田町 1124 - 3 電話 横浜 (045) 802-1523番

監督就任して早1年が経ち、この挨拶文を執筆している中で、今年も伝統の早慶戦の季節がやってきた事を実感しており、大変気持ちが高揚しております。

さて、この早慶戦は、昭和28年から一度も途切れることなく開催され、私の知る限りでは、大学バドミントン界において最も回数を重ねた定期戦であり、今年遂には第65回目を迎えることができたのも、ひとえに関係者の皆様方のご尽力によるもので、特に、慶應の皆様方におかれましては、一昨年度から本学記念会堂建て替え工事のため、4年連続で慶應義塾大学日吉記念館を利用させて頂く事となり、皆様方のご厚意に誠に感謝申し上げます。

その慶應義塾大学日吉記念館についても、今回の早慶戦実施直後に現記念館を建て直すということをうかがっており、歴代のOB・OGの方々にとっては、感慨深いものかと思われます。来年度には生まれ変わった新日吉記念館を拝見できるかと思いますが、学生の皆さんにもぜひ現記念館の姿を目に十分に焼き付けてもらいたいと思います。

少し話は変わりますが、今年の8月に実施された第23回世界バドミントン選手権大会では、本学OBの嘉村健士氏が男子ダブルスで銅メダルを獲得しました。嘉村氏には心から賛辞を送りたいと同時に、世界トップレベルの選手が学生時代には本定期戦に出場していたことを現役部員全員がぜひ意識して本定期戦に臨んでもらいたいと思います。

さて、今年度の本学の戦績はというと、現時点(8月末)で男子は団体戦で好結果(関東学生春季リーグ優勝、東日本学生選手権大会優勝)を残していますが、女子はもう一步の状況となっています。ぜひ男女ともに助け合いながら、練習に創意工夫を凝らして秋には最高の結果を残してくれることを期待しています。

今年の早慶戦は、私自身が監督として参戦2年目となりますが、現役学生、特に4年生(松本、中里、富岡、田島、古田、江藤、中西、松岡、三谷、松田)には、4年間の集大成として、各人が悔いのないよう全力を尽くして、慶應の選手らと名勝負を繰り広げてもらいたいです。

また、1年生~3年生においても、一人一人が主役であることを意識して、独特な雰囲気を持つ本定期戦に対して、臆することなく日頃の鍛錬の成果を存分に発揮する場として一丸となって勝利を目指してもらいたいです。

最後になりましたが、今年も慶應の現役及びOB・OGの皆様方と本定期戦及びその後の懇親会を一つのきっかけとして両校の友好がさらに深まることを祈念致します。

WASEDA **VS** **KEIO**

500円でいろんな種類の
おいしいハンバーグ定食が
食べられる!!

ハンバーグの店「キッチンミキ」

TEL. 45-5245-2262

慶應義塾大学 商学部 2013年卒

岩橋 俊明

65回目となる慶早バドミントン選手権を迎え、心よりお慶び申し上げます。また、本大会の開催に当たり各種運営のために御尽力された皆様には頭が下がる思いです。

私が4年生のときの慶早戦は丁度60回目を迎えた時でした。そこからもう5年も経過したのかという驚きの気持ちもあります。ただ、5年を経ても現役時代に参加した4回の慶早戦はどれも深く記憶に残っています。その中でも、私にとって最も印象に残っている試合は2年生時の岩崎竜馬君との試合でした。

初めて選手としてコートに立ち、周りを見ると慶早合わせ100名近い応援の方々があり、改めて慶早戦の重みを感じながらの試合でした。内容はと言うと、1ゲーム目は緊張もあって何も出来ずに終わってしまったのですが、2ゲーム目はなんと11-7と先にインターバルを迎えました。周りの応援も盛り上がり、私自身「必ずこのゲームを取ろう」と思っていたのですが、そこから1点を取り、なんと14連続失点。圧倒的な実力の差を見せ付けられました。その時の不甲斐なさ、応援してくれた方々への申し訳なさ、何よりも「強くなりたい、岩崎君に勝ちたい」という思いは今でも鮮明に思い起こせるほどで、そこから私の慶早戦の目標が「出る」ではなく「勝つ」に切り替わったとても大事な試合でした。

2年たち、4年生の慶早戦では単複両方で岩崎君と再戦することが出来ました。結果は共に完敗だったのですが、最後に岩崎君と試合ができたことは大学4年間の集大成のように思え、悔しさと同時に嬉しかったことを覚えています。

慶早戦というのは不思議な試合で、ことバドミントン男子については長年早稲田が勝利を収めていますが、それでも多くの方々が応援のために各地から駆けつけます。これは、慶早が勝敗を超えた真のライバルであるという証明であると同時に、歴代の出場者、関係者の方々にとってもそれだけ思い入れがある大会ということではないでしょうか。

今年も早稲田は強く、簡単にはポイントを取らせてもらえないと思います。しかしながら、それを承知で準備を重ねた慶應も一筋縄ではいきません。必ずや早稲田を苦しめ、周りの記憶に刻み込まれるような名勝負を展開し、勝利をもぎ取ってくれると確信しております。

最後に、今年も慶早両校が今後も良きライバルで有り続けるような素晴らしい慶早戦にしてくれることを祈念して結びの言葉とさせていただきます。



慶應義塾大学 法学部政治学科 平成14年卒

三壁 敏隆

第65回となる慶早バドミントン定期戦を迎え、心よりお慶び申し上げます。また、本定期戦の開催に向けてご尽力されたきた両校の皆様にご感謝申し上げます。

昨年のブラジルのリオオリンピックで女子ダブルスの決勝は、真夜中に拳を握りしめて一喜一憂しながら見ていましたが、素晴らしい結果となりました。よし、などと叫んでいたかとも、最後の5ポイントはご近所迷惑になったかもしれません。

慶早戦と言えば、早稲田大学の選手の華やかなプレイにため息をつきながら悔しく、羨ましく見ていた記憶があります。1部と3部で大きな差がありましたが、少しでも長くラリーをしたい、との気持ちでした。そんな自分に対して早稲田大学の選手は私が何とか粘ろうともがくところを、無情にもさらに一段とギアをあげて引き離します。せめても、ただ単に挑戦して勝つことが厳しくても、試合を観戦して下さっている方々に何か伝えられるものがあるような試合をしたい、との気持ちもありました。その何かは、今思い返すと正直よく分からないところがあるのですが、毎週のように日吉に来て指導して頂いている諸先輩の方々などお世話になっている方々の前で、気持ちの入らない無様な試合は絶対にできない、プレイで何かお返し出来れば、でしたでしょうか(ちょっと盛り過ぎましたか)。もちろん、いい試合ばかりではありませんが、3年生の時に早稲田大学の主将と戦い、弱くて途中足をつりながら試合は負けたのにも関わらず、後輩から感動しました、と言われて、何だかとても嬉しかったのを覚えています。バドミントンは何とか続けていますが、今となっては100%、ビールのためにバドミントンをしていません。最近になって早稲田大学同期の板倉君と何度かダブルスの試合を出たりして、早稲田大学とのつながりは不思議なご縁を感じます。両校の選手の熱い戦いを期待しています。

早稲田大学 社会科学部 平成26年卒

関川 容子

この度は「第65回早慶バドミントン定期戦」の開催、誠におめでとうございます。両校の選手が日頃の練習の成果を出し切り、今年も熱い戦いをしてくれることを楽しみにしています。

早いもので私も社会人4年目となり、学生の頃のチーム一丸となって戦う試合がとても懐かしく思います。早慶戦は毎年、他の試合と違う緊張感があり、特に声出しに印象があります。体操、アップ、試合や応援と一人一人が必死になって声を出していました。4年生最後の早慶戦では、先輩方から教わった声出しをいかに自分達の代のカラーに染めて、楽しく真剣にできるかと考えていたことを覚えています。

早慶戦というと、両大学の伝統と歴史が詰まっている定期戦であり、私はこの試合に参加できる喜びを感じていました。今もお日本のトップで活躍されている選手、先輩方、後輩と共に団体戦で戦えたことが何よりも嬉しく、また、早稲田の一員として「慶應を倒す」と強い思いを持って臨めた事はいい経験となっています。現役選手みなで戦う早慶戦は熱いドラマを生むこともあり、現役、OB、OG全員で楽しむ事ができます。今回の早慶戦でも心に残る試合が生まれることを期待しています。

現役の選手には早慶戦の雰囲気を楽しみながら、早稲田の誇りを胸に悔いの残らないスポーツマンシップあふれる試合を展開してほしいと思います。4年生にとっては最後の試合となります。練習でやってきたことを全て出し切り、今を楽しみながら、そして、プレーできることに感謝をしながら試合を盛り上げてください。

結びに、この定期戦の開催、運営にあたり御尽力賜りました方々に深く感謝を申し上げますと共に、この定期戦を通して両校のさらなるご発展を心よりご祈念申し上げます。

WASEDA

早慶戦
に
寄せて

KEIO

祝 早慶定期戦

卒業記念ペナント調製
マーク・ワッペン・旗・腕章

オギワラ

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田1-8-24

早大東門前大塚通り

TEL03 (3202) 7 8 4 6

FAX03 (5273) 8 2 8 5

慶應義塾大学 看護学部 平成20年卒

高橋 明子

第65回〈早慶バドミントン定期戦〉の開催を、心よりお慶び申し上げます。

私が初めて慶早戦を観戦したのは、慶應女子高1年の時でした。バドミントンを始めたばかりの私は、レベルの違いにただただ圧倒されたのを懐かしく思い出します。両校のOB・OGや応援指導部の、勝利を祈る熱烈な声援も鮮明な記憶としてあります。メインイベントの主将戦では、母校の威信を懸けた熱く熾烈な戦いに、観ているこちらの胸までもが熱くなりました。そしていつの日か私も、慶應の代表としてこの舞台に立ちたいとの思いを強く抱きました。

時を経て、満を持して臨んだ大学4年の最後の慶早戦。私たちは目標として「早稲田から10勝」を掲げ、日々練習に励みました。1部の早稲田に対して、我々慶應は3部。格の違いは誰もが自覚していましたが、部員の中にその目標を諦めている者は誰一人としていませんでした。また、直前の秋季リーグ戦で女子は3部昇格を果たし、勢いがありました。慶早戦の前日に、後輩たちが「必勝 慶應」と綴った鉢巻きを作ってくれ、「自分だけではない、部員全員の思いを背負って戦おう」との思いが沸き上がってきたのを覚えています。当日は、どんな球が来てもすべて返す、その気持ちで全力を尽くしました。結果は0勝20敗と惨敗。1勝もできず、自分の無力感に打ちのめされました。

今年の慶早戦は、私の現役最後の年から数えてちょうど10年目を迎えます。あれから10年とは、歳月の流れは早いものだと感慨を持ちます。同時に、この10年間に慶應も相当の進化を遂げています。早稲田との力の差も確実に縮まっており、今年的女子チームは例年にも増して期待できるメンバーが揃っています。春秋リーグ戦シングルスで計9勝を挙げた絶対的エースの主将川原、部員からの信頼が厚く努力家の副将片山、プレーヤーとしてもマネージャーとしても部に欠かせない存在の主務富岡、強い信念を内にたぎらせる中元、バドミントン強豪校出身で既に貫禄を見せる期待のルーキー和田。この耀く5名が宿敵早稲田に挑みます！この5名に心から声援を送りたいと思います。頑張れ、慶應！！

KEIO

慶早戦
に
寄せて

WASEDA

慶應義塾大学 文学部 平成13年卒

佐々木 弘子

第65回慶早定期戦の開催にあたり、心よりお慶び申し上げます。

ここ数年はバドミントン界での日本人選手の活躍が目立つようになり、国内でもバドミントンに対する注目が飛躍的に高まっていると感じますが、先日足を運んだヨネックスジャパンオープンでも早稲田出身の選手の活躍を目の当たりにし、長きにわたり早稲田とこのように定期戦を開催できることを改めて誇りに思い嬉しく感じました。

私は現役時代の一番印象に残っている試合が2年生のときの慶早戦です。当時女子は部員が4名しかおらず、試合前はいつも「ケガだけは絶対にしないでとにかくコートに立って」と言われるような厳しい状況でした。1部でも上位に入る早稲田との差は大きく毎年敗戦が続いていましたが、勝つのは厳しいと思われていたダブルスを2つ先取し、残るシングルス3つのうち勝てる可能性があるとしたら私の試合だけという状況で、1セット目をセッティングの末に落としてそのまま流れを変えられず競り負けてしまい、久々に優勝できるのではという皆の期待にこたえることはできませんでした。私自身、今までで一番悔いの残る試合であり、応援して下さった先輩方やチームメイトの落胆は大きかったと思いますが、女子主将の「今日は全員勝てたからすごく嬉しい」という言葉に救われ、苦いだけの思い出ではなくなりました。20年経った今もそれが鮮明に記憶に残っているのは、現役も卒業生も一丸となって戦う、伝統と独特の緊張感のある慶早戦の舞台だったからではないでしょうか。

試合後の交流会では雰囲気は一転、早稲田の皆さんとあっというまに意気投合し、早稲田の先輩の家に数名で泊めてもらい朝まで楽しく飲んだことも忘れられません。今でも試合で顔を合わせることもあります。早稲田の同期や先輩方の活躍は私にとっても大きな励みとなっています。

今日の定期戦においても、両校の選手がこれまでの練習で培った力の全てを出し切り、すばらしい試合を繰り広げてくれること、そして卒業後も続いていくような交流を深めてくれることを願っております。

慶應義塾大学 法学部法律学科 平成29年卒 (前年度主将)

松井 佑樹

第65回慶早バドミントン定期戦の開催、誠におめでとうございます。

昨年の定期戦から一年がたったと思うと、時の経過の早さを感じます。バドミントン部を引退してから生活は一変しましたが、昨年の定期戦でコートに立った時の緊張感、応援の熱気、ラリーのスピード感、サーブを打つ時の手の震えまで、その時のまま思い出すことができます。

私は一貫校出身ですが、高校生の時からこの慶早定期戦は憧れの舞台でした。一緒に練習をしていた先輩方が、強敵早稲田大学に立ち向かう姿は、常に輝いていました。その先輩方の姿を目標に、日々練習に打ち込み、早稲田大学の選手たちと対峙した経験は、私にとってかけがえのないものとなっています。

この定期戦は、今回で65回目の開催となります。日本のバドミントン界を見ても、特に長い歴史を誇る両部に所属する選手たちは、事あるごとに偉大な先輩方が積み上げられてきた時間の重みを感じると思いますが、特にこの定期戦は、その重みを直に感じることでできる機会であると考えています。

また、今回の定期戦は、現在の日吉記念館で行う最後の試合でもあります。一步早く建て替えに入った早稲田大学の記念会堂とともに、両部の練習を長きにわたって見守ってきた体育館の改修は、長い伝統の継承とともに、新しい時代の到来を感じさせます。現役の選手の皆さんには、そのような伝統ある部を代表し、コートに立つことができることを誇りに感じつつ、練習の成果を存分に発揮して、これまで以上に熱く激しい試合で、この定期戦に新たな歴史を刻んでいただければと思っております。

最後になりますが、今回の慶早バドミントン定期戦が素晴らしい戦いになること、また今後の両校の更なる活躍を祈念いたしまして、私の挨拶を締めさせていただきます。



祝 早慶バドミントン定期戦

いつもご利用ありがとうございます。

OB・OGの皆様にも同窓会・クラス会・各種パーティーのご予約承っております。

慶應義塾日吉ファカルティラウンジ

営業時間 AM 11:00～PM 8:00

定休日 日・祝日 (パーティ予約については応相談)

早稲田大学 政治経済学部 平成29年卒 (前年度主将)

井上博貴

第65回早慶バドミントン定期戦が今年も開催されますこと、誠におめでとうございます。由緒ある一戦にかかわることが出来ることを心より喜び申し上げます。

昨今の定期戦は以前にも増して盛り上がりを見せており、OB・OGをはじめとする来場者の数も増えており、早慶両校関係者にとっては欠かせない大変大きなイベントになっていると感じております。65年という長い歴史を誇るこの定期戦は、OB・OGの皆様などの観戦者それぞれに様々な思い出を蘇らせてくれるものであると考えております。気が付けば私も卒業生として定期戦を迎えることになりました。入学したばかりの一年次の早慶戦は、他の大会とは大きく違う雰囲気にとっても緊張していた思い出があります。また、昨年の早慶戦は、私が肉離れをしてしまったことにより最後の早慶戦になるにも関わらず出場することができませんでした。私にとって高校生時代から続く最重要な早慶戦という行事に出席できなかったことを今になっても強く後悔しております。

また、定期戦後の懇親会も早稲田・慶應ならではのイベントであると感じております。それまで、敵同士であった両校の選手がラケットを置き、盃を交えることによって友情を育む懇親会はこの定期戦には欠かせない伝統です。早稲田・慶應双方の学生からOB・OG様まで、とても多くの方々と親睦を深めることが出来る貴重な機会をこれからも大切にしていってください。

最後にはなりますが、今大会を開催するにあたり運営に尽力して下さった方々、また常に両校の発展を願い、支え続けてくださるOB・OGの皆様へ感謝申し上げます。両校の熱い戦いを期待するとともに、更なる活躍を祈念いたしまして、私の挨拶と替えさせていただきます。



横浜家系ら〜めん

武道家

新宿区馬場下町62白馬ビル1F

☎03-3205-3245

ライス15時まで無料

初めに、今大会を迎えるにあたりご尽力いただきました関係者の皆様、また歴史ある大会を今日まで紡いできてくださった両校OB・OGの皆様に厚く御礼申し上げます。

本年で65回を数える慶早バドミントン定期戦という伝統の一戦をこの日吉記念館で開催できますこと、そして慶應義塾体育会バドミントン部創立75周年という記念すべき年にこの素晴らしい舞台に主将として臨むことができますことを、大変誇らしく、名誉に感じております。

私は今大会を「集大成」の場であると考えております。私は慶應義塾体育会バドミントン部に入部以来、常にチームの勝利を目指して参りました。時には勝利の喜びを皆で分かち合い、時には自身の未熟さを痛感することもありました。

私たちは今日まで地道な練習を日々積み重ねてきました。先輩方が積み重ねられてきた基礎をより強固にし、ご期待に応えるべく精進して参りました。苦しい時もありましたが、その度にチーム一丸となることで乗り越えることができました。

それらすべての想いを自信に変え、この集大成の場で最高のパフォーマンスを発揮いたしますこと、部員を代表してここに宣言いたします。

ここまでチームが戦い抜くことができたのは、ひとえに監督やコーチをはじめ、OB・OGの皆様、保護者の方々など、いかなる時であっても私たちを気にかけて、ご支援、ご声援をいただいたすべてのの方々のおかげです。

今日、現行の記念館で迎える最後の慶早戦という舞台で躍動することを誓い、主将挨拶とさせていただきます。

KEIO VS WASEDA

「歴史と伝統」!! 手作りの店
部員会に! 其の他のパーティーに!

山 食

慶應義塾三田キャンパス内
TEL 03(3453)5971

今年も早慶バドミントン定期戦を迎えられたことを大変うれしく思います。また、大学生活最後の試合を伝統のあるこの試合であることを誇りに思います。早慶両校の伝統を心に、全員で一生懸命に戦いたいと思います。

昨年の早慶戦が終わり、前主将から早稲田大学バドミントン部の主将という立場を引き継いでからあっという間に1年が過ぎてしまいました。この1年間、部を引っ張る立場であるからこそ、今まで経験したことのない努力を重ね、壁にぶつかったこともありました。同期や後輩と支えあいながら部員全員で乗り越えてきました。そして今日、1年間の成果を出し切り早慶戦優勝という誇るべきものを来年にしっかりと引き継いでいけるよう、全力で戦いたいと思います。

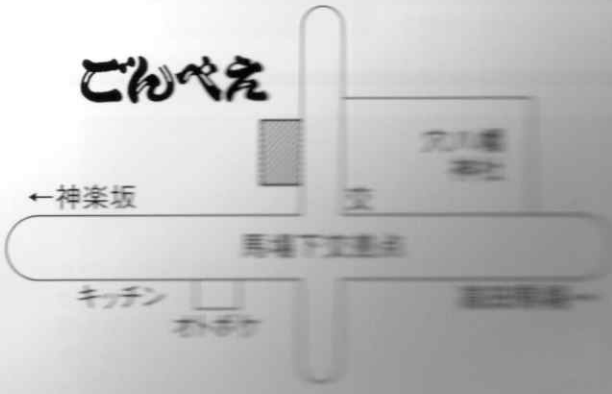
最後になりましたが早慶戦の開催にあたりご協力いただいたOB・OGの方々をはじめ、すべての方々に感謝を申し上げます。今年の早慶戦も選手全員が全力で、且つ気合いのこもった戦いをお見せしたいと思います。

WASEDA KEIO

手打うどん

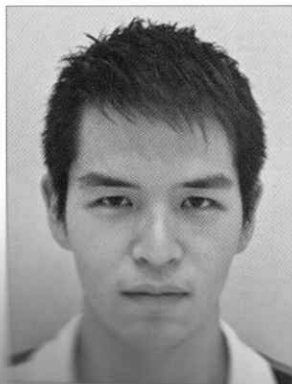
ごんやえ

ごんやえ



新宿区馬場下町18番地 ☎3212-3550

KEIO



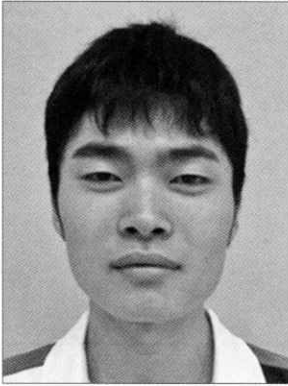
主将
上村 聡
文4
西武台 (千葉)

我らが全幅の信頼を寄せる慶應の大黒柱。ミスター文武両道。市原隼人似の甘いルックスでありながら一途な一面も有する。そんな最強の慶應ボーイは今年の慶早戦で早稲田主将を倒し、バドミントン人生の有終の美を飾る。



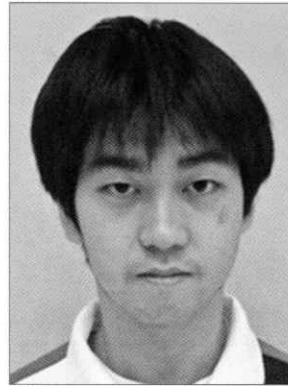
副将
長谷川 穂
理工4
東葛飾 (千葉)

凄まじい破壊力を持つスマッシュを放つ慶應のパワータイプ。それを脱しようと日々新たなフォームを模索しているがやはりパワータイプなのである。剛腕スマッシュで早稲田から1本とる。



主務
荒川 智哉
理工4
東葛飾(千葉)

冷静にラリーを繋げて相手のミス誘うプレースタイルは仕事面でも同様である。ミスを一切せず難なく仕事をこなす彼は慶應の縁の下の力持ちである。そんな彼の目標は打倒早稲田主務である。結果はいかに?!



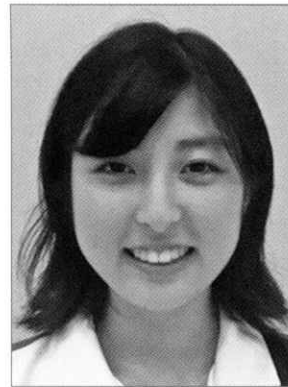
関根 章史
文4
両国4(東京)

長いトンネルを抜けるとそこは慶早戦だった。満面の笑みでコート内を動き回り、大きな声を出す彼はチームのムードメーカー。今年こそ得意のダブルスで早稲田を倒す。

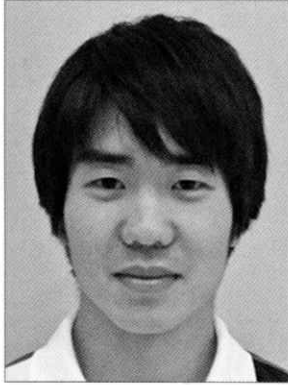


加世田 大梧
薬4
武蔵(東京)

筋トレ不要論を唱える彼だが、気づかぬ内にギリシャ彫刻のような洗練された肉体を手にしていった。怪しい薬の使用が疑われる。体育会に4年間所属してきたかのような風格があるが実は1年10ヶ月しか在籍していない。短期集中型で急激に実力を上げた彼は早稲田の脅威となるであろう。



女子主将
川原 優
総合4
九州国際大学付属(福岡)
部内1のコミュカの持ち主。ひょうらを歩けば、知り合いに会わない日はない。常に前進を続ける彼女はその道半ばよく転んでは、至る所に生傷を作る。名門九国出身、女子部エースの最後の戦いに期待あれ。



副務
井本 直孝
経3
慶應義塾NY学院(NY)

幼少期は北京、高校はニューヨーク、現在は東京に住む国際人のいももん。そんなコスモポリタンなエリートな彼は、大学始めてありながらフォームの綺麗さは強豪校出身の部員と引けを取らない。慶早戦へ向けてプレイだけでなく運営の面でも着々と準備してきた彼に期待あれ。また、2代目ガット張り職人でもある。



高山 智也
法政3
慶應義塾(神奈川)

最近はバドミントン以外が忙しい法学部の長。同学部の舎弟を引き連れる彼は物事を深く考えすぎるが故、我々には理解できない域に達している。その美談と熟考から導き出されるスマッシュは、早稲田の脅威となるだろう。



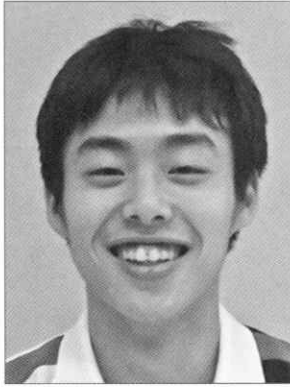
榎本 勝行
理工3
川越東(埼玉)

松井前主将から受け継いだ豚星。会長の、えのん。毎週、豚星。パワーを注入し、スマッシュ速度を上げることに研鑽している。そんな彼に逆らう者には部費3倍の刑が科せられる。粘り強いコートカバー力で早稲田から勝利をもぎとるだろう。

※「豚星」とは一部の部員の間で絶大な人気を誇る元生吉に有るラーメン屋である。



高橋 淳
総合3
聖学院(福岡)
慶應のライバルである聖学院の部長。部員からの信頼は高く、部内1のコミュカの持ち主。ひょうらを歩けば、知り合いに会わない日はない。常に前進を続ける彼女はその道半ばよく転んでは、至る所に生傷を作る。名門九国出身、女子部エースの最後の戦いに期待あれ。



野田 龍
総合3
湘南(神奈川)

コート内を素早く動き回るスピードスターの彼はポケモンで例えるならひこうタイプであろう。練習では声を出して常に全力の彼は気合十分。かかって来い早稲田!!



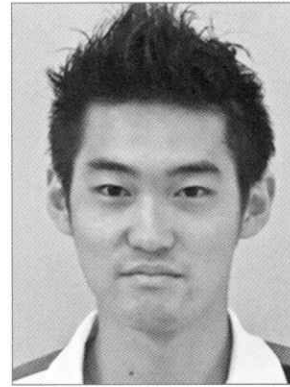
女子副将
片山 有香里
経3
鷗友学園(東京)

慶應の高畑充希こと、片山有香里。学部内での倍率随一のゼミに所属していて、可愛さと学力を兼ね揃える。そんな彼女は最近、愛犬にベタ惚れ。ソフトボール部時代に鍛えあげられたフィジカルで早稲田から一勝もぎ取るだろう。



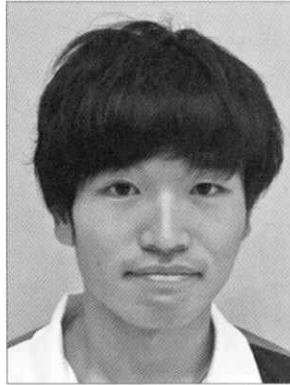
女子主務
富岡 有希奈
商3
横浜国際(神奈川)

女子部1のしっかり者トミー。普段から余裕のある雰囲気を出しているが、裏では部活と学業で大忙し。そんな彼女は、その有能さと勤勉さで早稲田に一泡吹かせるだろう。



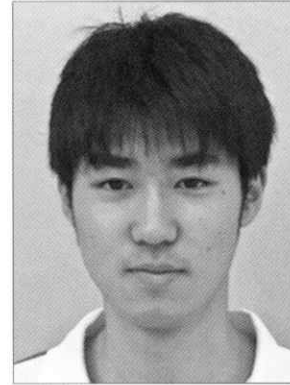
清水 遼都
経2
慶應義塾(神奈川)

塾高特有のチャラさとクールさ兼ね備えるはるかちゃん。塾高出身の前主将と似たようなオーラ放っている。女の子の話題に事欠かない彼はチア部のあの子と別れる際、腰を疲労骨折したそう。遊びは程々にしよう。



金子 凱
法政2
公文国際(神奈川)

国際学園からやってきたガイ。英語を得意とする彼はバドミントンを通じた国際交流で多様な価値観を習得してきた。多様なボキャブラリーで早稲田を翻弄するであろう。



福島 徹平
商2
芝(東京)

通称テツ。粗相を繰り返していた彼も今や立派な先輩に。彼の得意とするスマッシュは元全日本チャンピオンのコーチをもアツと言わせるものである。他のショットをも補うべくいつも練習後残り、ノックや筋トレをする真面目な一面もある。「もうスマッシュだけは言わせないぜ」。



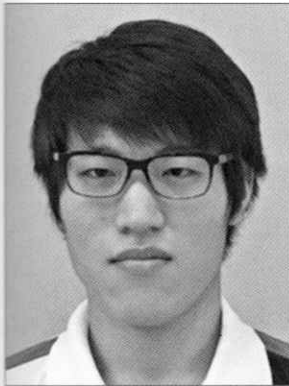
吉弘 昌功
商2
慶應義塾(神奈川)

バドミントンを楽しむ、単位に愛されなかった吉弘さん。そんな彼はきつい練習に耐えるべく、日々のトレーニングを欠かさない。貴族っぽいと評判の髪型を毎朝キメて日吉へと向かう。見た目通りの俊足から繰り出されるスピードのあるラリーで早稲田を倒します。



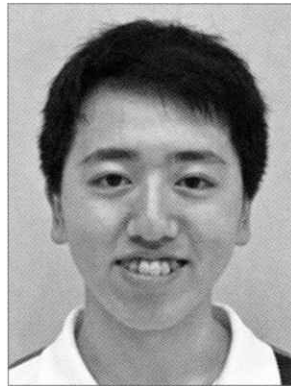
岡部 庄之介
理工2
新潟(新潟)

冷酷な見た目とは裏腹に熱いハートの持ち主の軟体レシーバー岡部。蟹のような滑らかな足運び、そしてラケットが8本あるかのような身体の柔らかさを活かしたレシーブで早稲田を苦しめるであろう。そんな彼の慶早戦前夜はアニメ祭りである。



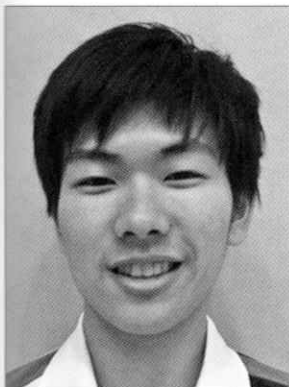
佃 啓介
法法1
広島なぎさ(広島)

部活では常に全力のツクダ100%。そんな広島っ子は練習疲れからか朝が弱いようである。夏に向けて頭がサッパリした彼は決して合宿の集合時間に起床したからではない。そんなマイペースな彼は試合の流れを掴むであろう。



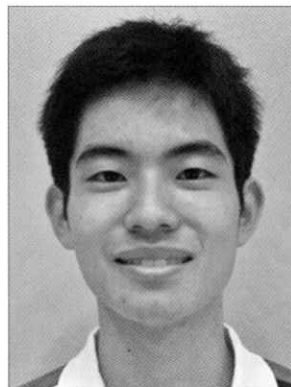
渡辺 圭
法法1
慶應義塾志木(埼玉)

志木からやって来た優等生。1年のしっかり者である圭は粗相を繰り返す同期を冷やかにみている。テキパキ仕事をこなすことで着着と先輩の信用を勝ち取る彼は優れた吸収力で他の部員たちの技術をも奪う。今後が大いに期待できる。



三木 隆太
商1
慶應義塾湘南藤沢(神奈川)

SFC高校からやってきたミキくん。大学初めでありながらも入部して半年後には2年生を全員倒すと豪語していたのだが、その目標は達成されずにいる。高い目標を己に課し、日々練習に取り組む彼はメキメキと実力を上げてきた。バレーボールで鍛え上げられた脚力から繰り出されるジャンプスマッシュは逸品である。



引地 亮太
理工1
川越(埼玉)

埼玉からやってきたヒッキー。真面目そうな見た目とは裏腹に天然な面もある彼はピュアな気持ちで練習に取り組むことで多様なプレイを身に付けてきた。1年のエースである彼は将来慶應を引っ張る選手になることが期待される。先駆けとして今年早稲田から一勝をもぎ取るであろう。



中元 悠花子
総合1
立命館慶祥(北海道)

幼少期はロシアで過ごし、北海道で育ち、デンマークにバドミントン留学した女子部の国際人。そんなエキゾチックな彼女は人生の大半を寒冷地で過ごしてきたため暑さに弱い。程よく涼しい10月下旬にはマックスの力をみせてくれるだろう。



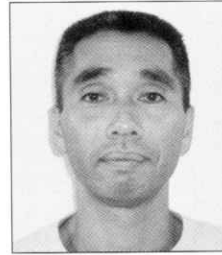
和田 穂代
総合1
聖ウルスラ学院英智(宮城)

名門聖ウルスラ学院からやって来た愛嬌たっぷりのまりよ氏。才色兼備の彼女はフランス人留学生をも魅了し、スマッシュ並みの速さで仕事を終わらせる。見た目とのギャップに驚きあれ。



監督
岩田 好造
 Kozo Iwata
 昭和63年経済学部卒
 長崎東(長崎)出身
 リクルート

大地に沁みる雨水のように、新監督は既に部員の拠り所となった。仕事と監督業で多忙な中でも、部員との会話を惜しまない彼のスケジュールを逆算すると、いつ睡眠をとっているのか不思議である。



女子監督
加藤 幸司
 Koji Kato
 昭和57年法学部卒
 慶應義塾志木(埼玉)出身
 慶應義塾大学体育研究所

学生スポーツとしてのバドミントンをひたすら探求する不屈の人。その功績は歴代の女子部員の逞しさを見れば明らかである。



ヘッドコーチ
竹鼻 拓也
 Takuya Takehana
 法政大学卒
 金沢二水(石川)出身
 NTTドコモ

一流の技術を、体力を、そしてなによりバドミントンへの熱い思いを、日々伝え続ける漢。その背中からは、ついていくに頼もしく、乗り越えるにはあまりに大きい。超人。相手のスマッシュをプッシュで返球できる。



コーチ
八木 勘輔
 Kansuke Yagi
 平成26年経済学部卒
 土佐(高知)出身
 メタルワン

土佐高校で育まれた器の大きさが、立ち居振る舞いや言葉の端々に見え隠れする。醸し出される雰囲気は、リーダーシップかくあるべしと後輩に伝わっている。



男子コーチ
平林 桂祐
 Keisuke Hirabayashi
 平成26年文学部卒
 松本深志(長野)出身
 ソニーモバイルコミュニケーションズ株式会社

彼の前では、どんな悩みもつつい打ち明けてしまう、究極の聞き上手。ゲーム練習では多くのアドバイスをくれるため、対戦希望は多いが、最近では疲労感との兼ね合いもある。

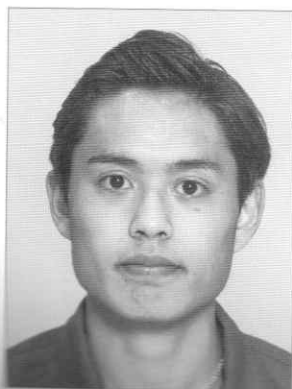


女子コーチ
植田 悠
 Haruka Ueda
 平成24年環境情報学部卒
 九州国際大付属(福岡)出身
 全日本空輸

その澁刺とした指導は、さながら清涼剤。どんな時でも練習の雰囲気を明るくしてくれるが、コースを突くショットは容赦無し。

(※) 各コーチの紹介欄に掲載されたコメントは、各コーチの人柄や生き様に対して抱いている印象を基に長谷川副将が書き綴ったもので、コーチ本人の言葉ではないことをおことわりしておきます。

WASEDA



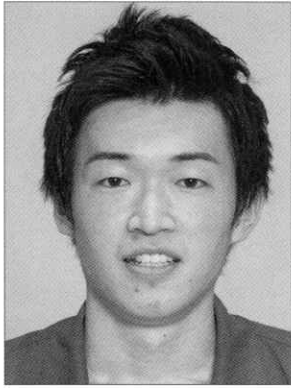
主将
松本 康平
スポ科4
埼玉栄 (埼玉)

早稲田バド部の大黒柱。練習中の厳しさと飲み会での優しさは天下一品。ここだけは言える。日サロには行ってません。



副将
中里 裕貴
スポ科4
埼玉栄 (埼玉)

我らのザッティ。世界のザッティ。ザッティ。体は熊、頭脳は子供、その名もファミリーザッティオ。暴れ狂ったスマッシュに注目ですね。



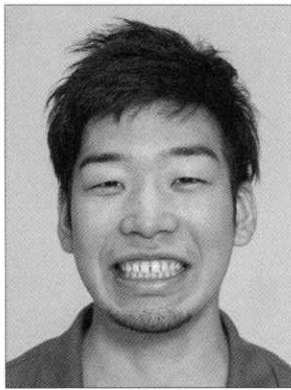
富岡 寿将
社学4
八代東(熊本)

いつも寝起きの富岡さん。いつもギリギリ富岡さん。寝すぎて、身長2メートル越えも夢ではない。人間セルカ棒とも呼ばれている。飲み過ぎには気をつけてタチツテトミオカさん。



古田 時喜也
法4
早大本庄(埼玉)

実家大好き、ロリコンの可能性あり。彼の発言には驚かされる。麻雀してる時の彼はどんな時よりも真面目に見えて集中しています。



主務
田島 宏樹
文構4
早大本庄(埼玉)

この人がいないと部が成り立たないと言っても過言ではない。時には情熱的な熱い言葉で語る。部を支える心意気は誰にも負けない。



江藤 怜央
スポ科4
生田(神奈川)

マウスピースをつけ始めた逆立ち体操部兼バドミントン部。マウスピースをつけながらにやにやしているのが非常に可愛らしい。休日になにをしているかはいまだに誰もわからない。



女子主将
中西 貴映
スポ科4
大宮東(埼玉)

我らが女子部長中西貴映。細身の長身から繰り出されるショットにみんなメロメロ。そんな頼れるキャプテンも私生活の悩みは尽きない女子大生。ライバルに日々頭を悩ませている。あ、ミスジャッチは見逃しませんよ。



松岡 英美
スポ科4
九州国際大付属(福岡)

大怪我を乗り越え復帰。粘り強いプレーでチームを引っ張る。プレー中の真剣な姿とは裏腹に、日常の言動や行動は是非ワールドに送られている。やはり九星の血は争えないのだろうか。



三谷 奈央
文構4
高松第一(香川)

行動範囲がかなり広め。誘ったり誘われたりどこでも行けてしまう。大学生活やりたいことをやりきりそうである。フットワークの軽さ必見。ピッピカチュ。



松田 勇馬
スポ科4
高松第一(香川)

...



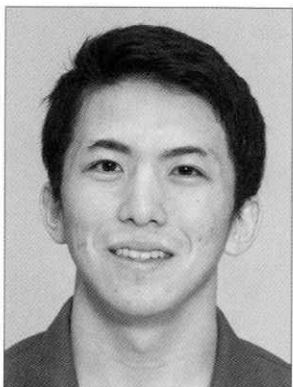
古賀 穂
スポ科3
富岡(福島)

我らのエース。バドミントンも強くてイケメンで頭も良くて彼ほど完璧に近い人間はいない。みんなが尊敬する存在。でもテストの日程は覚えてほしい。あと Twitter フォローしてください。



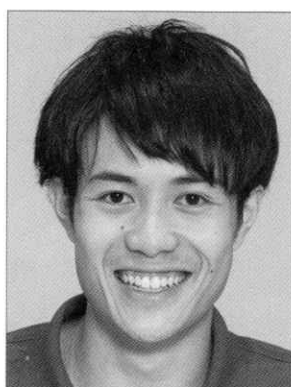
菅原 栄史
スポ科3
聖ウルスラ英智(宮城)

見た目はチャラいが中身は真面目。めちゃ優しい。なんでも買ってくれる。なんでも笑ってくれる。みんなの模範となるチャラい先生であってほしい。彼の本音を知りたいところ…



大木 貴裕
教育3
早大本庄(埼玉)

The 堅実。彼のスイッチの入った時のガッツは誰にも止められない勢いを持っている。そして超時間差スマッシュも彼の魅力の1つである。今後は彼のプライベートも気になる…



大西ジャンリッチビンセント
政経3
東京学館浦安(千葉)

日本とフィリピンのハーフ。またはエヴァンゲリオン。ラウンドでとれるのにわざとカッコイイという理由でハイバックでとるハイバック大好き人間。これからもハイバックと筋トレをいっぱいしよう!



中村 幸
スポ科3
富山国際大付属(富山)

早稲田のアイドル。某アイドルが結婚発表で賛否両論を巻き起こしたがこちらのアイドルも既に婚約済みである。パワフルなスマッシュと可愛いほスマイルに注目。



岩崎 未来
国際教養3
K インターナショナル
スクール(東京)

今は4年生である。9月入学であり、皆と少しズレている…頭はアメリカン、味覚もアメリカン、日本語しか話せなさそうだが、英語はペラペラ。ペラペラペラペラ。



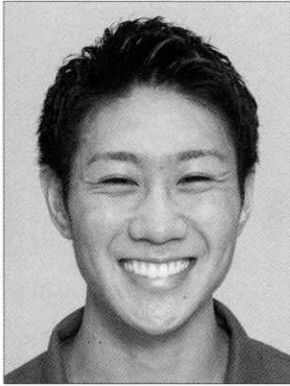
渡辺 俊和
スポ科2
埼玉栄(埼玉)

二年生のパパ。まとめ役渡辺くん。プレーはクールに決めてるが、中々のクレイジー。現在はTWICEの追っかけをしている。TWICEの皆さん気をつけてください。



浅原 大輔
スポ科4
聖ウルスラ英智(宮城)

お酒と女の子が大好きな遊び人。"大ちゃん"の愛嬌で部のみんなから愛されています。根は意外と真面目で優しくギャップもあたり。インハイ2位の実力に今後期待です!



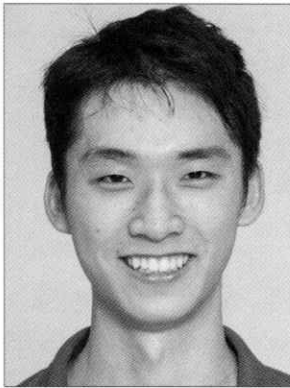
吉村 徳仁
スポ科2
高岡第一(富山)

空前絶後のおおおお!超絶怒濤のお笑い芸人!早稲田を愛し、慶應に立ち向かう男!その名も~吉村徳仁!!!早稲田のお笑い担当であり、実は心配性な一面も...もっと自信持てよ!



鈴木 朋弥
商2
聖ウルスラ英智(宮城)

早稲田バド部一のやんちゃ坊主。練習中も練習前後も隙さえあれば誰かにちょっかい。それでも2ダブでやるときはしっかりやってくれます。商学部という少し意外な一面も。ちゃつら。



田中 敬一郎
社学2
早稲田渋谷シンガポール校(シンガポール)

Mrシンガポール。最近では自転車に乗った話を聞きません。率先して部活の仕事をする影の努力家。アルティメットで鍛えた体で戦います。胴長ですが触れないで。



桃井 伶実
スポ科2
金沢向陽(石川)

ボスれみさん。嫌いな相手はひと睨みでねじ伏せる。と、見せかけて実は優しいツンデレさん。抹茶が大好きマクドナルドの店員。抹茶をあげれば最高のスマイルを提供してくれる。今年シングルルスもがんばるそうです。



松本 茜
社学2
九州国際大付属(福岡)

常に足にあざをつけている熊本県産の不思議ちゃん。メンタルも常にブレブレだが試合中の彼女の粘り強いプレーと顔フェイントには注目である。顔の3分の1をおでこが占めているのが最近の悩み、魅せる九国魂。



中根 智華
教育2
関東第一(東京)

俊敏性が持ち味の小学生。実はもう成人している好きなものには一直線。いつも周りを見て的確な指示を出すしっかり者な一面もある。ドラえもんが大好き。見た目は小学生だけどもしかして中学生かも。



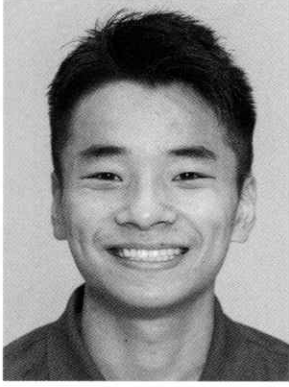
片桐 悠夏
人科2
西武台千葉(千葉)

どんなときもぎりぎりに登場して同期をビビらせる。毎日お化粧して大学に行く同期1の女子力の高さ。マイ弁当、バイク、ランニング、ダイエットで鍛えた体でコートを駆け回るおばさん。



小野寺 悠之
スポ科2
東三陸(宮城)

早稲田バド部一のやんちゃ坊主。練習中も練習前後も隙さえあれば誰かにちょっかい。それでも2ダブでやるときはしっかりやってくれます。商学部という少し意外な一面も。ちゃつら。



川本 寛樹
文構1
早大本庄(埼玉)

ご覧の通り顔がでかい
で有名のモッツこと川
本くん。鍛えた歌声は
中々のもの。だがしか
し二次元が大好きすぎ
るところが大きな問題
である。



吾妻 咲弥
スポ科1
富岡(福島)

早稲田女子の新星。すぐ
に欲を吐き出す期待のワ
ガママ。twiceに憧れてい
るがものすごく遠い
存在ということに彼女は
わかっていない。あとディ
スクをしっかり体でとる。